

## 1999年度日本気象学会奨励賞受賞候補者の推薦募集

日本気象学会は、研究費・研究環境に恵まれないなかで研究・調査に努められている方を奨励するために、「日本気象学会奨励金」制度を1970年に設けました。その後、小・中・高等学校で地学教育に従事している先生のなかで、特に実践的な気象教育を進めている方も奨励できるよう対象を拡げました。

1998年には「奨励金」を、表彰に重点を移した「奨励賞」に改めました。これまでと同様に、3件程度を表彰します。（これに伴う細則改正については「天気」45巻7月号p.589をご覧ください）

日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦委員会は、奨励賞受賞者選定規定に基づいて、候補者を理事会に推薦します。つきましては、広く会員からの推薦を募りますので、次の要領によって受賞候補者をご推薦下さい。自薦も歓迎します。なお、次年度以降の候補推薦は、常時受け付けることと致します。

1998年12月

### 記

締切：1999年2月26日（金）

送付先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内

日本気象学会事務局気付

奨励賞受賞候補者推薦委員会

用紙：A4判縦、横書き

推薦書および添付資料

1. 研究題目（推薦対象となる研究調査または教育活動の内容を簡潔に示すもの）
2. 受賞候補者氏名、ふりがな、勤務先、職名、連絡先、略歴
3. 推薦者氏名、印、勤務先、職名、連絡先（自薦の場合でも、必ず推薦者を付けること）
4. 推薦理由（1500字以内）  
受賞候補者の研究環境（指導者、研究時間、研究費等）について触れること
5. 研究成果の概要（1500字以内）  
これまでの研究調査または教育活動に関した出版物、報告、資料等（のコピー）を添付する。

募集概要

1. 気象学・気象技術に関するテーマについての研

究・調査、および現場における気象教育の実践、教材の開発など気象教育に関連した研究調査を対象とする。（研究としての完成度の高さは必要条件ではない）

2. 研究環境（指導者、研究時間、研究費）に恵まれていないことが条件である。従って、大学あるいは研究機関に勤務または在学し、経常あるいは特別研究費の配分を受けて気象学の研究に従事する者は、原則として奨励賞の対象外である。
3. 選考には、過去の調査・研究・実践の経歴およびその内容を重視する。関連学会、関連研究会や、関連機関の調査研究会等に発表または投稿がなされていることは、業績の評価を示す材料として考慮する。
4. 1999年度の奨励賞授与は、秋季大会（福岡市）で行う。

1998年までの「奨励金」受領者

(70) 長野 美文, 久保田 効, (71) 山川 弘, 竹内 丑雄, (72) 杉山 清春, 竹内 新, 地迫 良一, 深津 林, 清水 喜允, (73) 加藤 一靖, 小岩 清水, 村松 照男, (74) 矢野 兼三, 内山 文夫, 櫃間 道夫, (75) 岸田 和博, 鈴木 和史, (76) 山田 幹夫, 力武 恒雄, 松村 三佐男, (77) 小形 明, 宮川 和夫, 永沢 義嗣, 佐々木 芳春, (78) 島村 泰正, 伊豆味 正吉, 春日 信, 浦野 弘, (79) 木村 悠, 坂上 公平, 小柴 厚, (80) 山中 博, 若原 勝二, 中井 公太, 横山 博, (81) 細野 正俊, 西本 洋相, (82) 西田 耕造, 山内 博行, 原嶋 宏昌, (83) 田頭 正広, 渡部 浩章, 鈴木 欣也, 丹英二, 長島 真, (84) 平 隆介, 加藤 敏彦, 柴山 元彦, (85) 中田 隆一, 水野 量, 名越 利幸, (86) 大奈 健, 江上 公, 半田 孝, 瀧島 幸市, (87) 入田 央, 三品 博, 榊原 保志, (88) 大野木 和敏, 銘苅 真正, 金城 勝重, 橋本 雅巳, (89) 松本 崇司, 松田 耕治, 塩澤 定道, 有賀 公平, 西銘 宜正, (90) 横田 寛伸, 松村 哲, (91) 槇野 泰夫, 浅野 浅春, 岡田 哲也, 居島 修, (92) 中田 裕一, 川野 浩, 今 勝義, (93) 木俣 昌久, 吉田 洋一, 下畑 五夫, 植田 隆, 古川 善朗, (94) 前田 宏, 石原 昭史, 裏川 一雄, (95) 小沢 英司, 河合 宏一, 中吉 一行, 西岡 佐喜子,

(96) 四宮 茂晴, 大鹿 清司, (97) 山下 龍平, 花宮 廣務, (98) 上田 崇裕, 金森 恒雄, 坪田 幸政.

日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦委員会  
藤部文昭・山下 晃 (担当理事), 加藤諠司, 高野功, 高橋忠司, 名越利幸.



## 平成11年度宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの宇宙における組立が本年11月から開始され, 本格的な宇宙環境を利用する時代を迎えようとしております。宇宙環境では, 微小重力や高真空等地上では得がたい環境の下で, 実験を実施することができます。

我が国は, 国際宇宙ステーション計画に独自の実験棟 (JEM: Japanese Experiment Module) をもって参加しており, 今後, このような宇宙環境を利用する機会が飛躍的に増大することになります。

一方, 地上での広範な分野の研究を宇宙環境を利用する実験に結びつけ, 更には具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまで地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は, このように JEM を中心とした宇宙環境を利用する準備段階として, 幅広い分野の研究者に研究機会を提供し, 宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

### 公募制度の概要

大学, 国立試験研究機関, 民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。

### 公募対象研究分野 (以下の7分野)

微小重力科学, 生物科学, バイオメディカル, 宇宙医学, 宇宙科学, 地球科学, 宇宙利用技術開発

### 研究費

・フェーズ I 研究 (フェーズ I 研究 (A): 3千万円以下/年, フェーズ I 研究 (B): 6百万円以下/年, フェーズ I 研究 (B) 萌芽的研究 150万円以下/年) 宇宙環境の利用を指向した研究テーマについて, 宇宙環境利用の研究の有効性や研究手法, 実験手段等について, 理論研究, 調査検討や地上実験を行うもの。

・フェーズ II 研究 (1千万円程度～1億円以下/年) 宇宙環境を利用した研究の意義及び有効性が認められ, 研究手法や宇宙環境での実験に対する実験概念が明確に定義された研究テーマについて, JEM 利用テーマ募集への応募を目標に実験の計画作成及び実験装置等の要求仕様の設定を伴う本格的な宇宙環境利用に向けた準備段階にある研究を対象とします。

### 研究テーマの選定

財団法人日本宇宙フォーラム内に, 有識者によって構成される委員会を設置し, 応募された研究テーマの選定等を行います。

### 研究形態

研究形態としては, 委託研究 (大学, 企業), 共同研究 (国立研究所), 招聘研究の形態をとります。

### 研究期間

1年～3年

### 実験施設, 試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上, 落下塔, 航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

### スケジュール

- ・応募締め切り: 平成11年1月29日 (金) (消印有効)
- ・研究開始: 平成11年7月～

**注記:** 上記事項については, 11月下旬以降に詳細な応募要領等を下記ホームページに掲載する予定です。

### 問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム 公募研究推進部 募集担当

Tel. 03-3459-1653

Fax. 03-5470-8426

URL: <http://www.homepage.co.jp/jsforum>

e-mail: [koubo@jsforum.or.jp](mailto:koubo@jsforum.or.jp)